

Voluntary Plan

第3次環境ボランティアプラン実績総括

富士重工業は2002年に第3次環境保全自主取り組み計画（2002年度～2006年度）

【第3次環境ボランティアプラン】を策定し、全社をあげて環境保全活動に取り組んでまいりました。

この5年間の活動実績についてご報告いたします。

一部項目については目標が未達に終わりましたが、2007年度を初年度とする

第4次環境ボランティアプランにおきまして改めて目標を定め、達成に向け取り組んでまいります。

【第3次環境ボランティアプラン】富士重工業 環境保全自主取り組み計画（2002年度～2006年度）

[1] クリーンな商品

| 項目 | 第3次環境ボランティアプラン（2002年度～2006年度） | 2006年度 実績 | 評価 |
|---------------------|--|--|----|
| 燃費の向上 | 【自動車】 ◇フルモデルチェンジおよび年次改良毎の継続的な燃費改善を図る。 ◇2006年度までにすべての重量ランクで平成22年度燃費基準（2010年度燃費基準）を達成する。 | ○ガソリン乗用車は5ランク中2ランクで未達。 ただし、未達ランクの達成率は、1250kgで95%、1500kgで99%であり、クレジットを使用することで基準達成。 2007年度には全ランクで基準達成予定。 ○ガソリン軽貨物車は2001年度に全区分、2002年度以降は、全車種で基準達成。 | × |
| | 【汎用エンジン】 ◇2005年までに汎用エンジンの平均燃費15%向上（1995年比）を目指す。 | ○15%向上を達成した。（2005年度） | ○ |
| 排出ガスのクリーン化 | 【自動車】 ◇2002年秋までに、一部の車種を除き、全車を優・低排出ガス車（E-LEV）もしくは良・低排出ガス車（G-LEV）とする。 ◇2006年度までに、乗用車の平成17年基準50%低減車と75%低減車の合計を販売台数の80%レベル（うち平成17年基準75%低減車は50%）とすることを旨とする。 | ○2002年度までに一部車種を除き、E-LEV・G-LEV化を達成した。 ○2006年6月以降、平成17年基準75%低減車比率は、平均50%/月に達し、目標を達成。 ○平成17年度基準50%低減車と75%低減車の合計比率は平均74%/月で目標未達。2007年度達成予定。 | × |
| | 【汎用エンジン】 ◇2005年までに汎用エンジンのHC、NOx平均排出量30%低減（1995年比）を目指す。 | ○56%まで低減した。（2005年度） | ○ |
| クリーンエネルギーを利用した商品の開発 | 【自動車】 ◇ハイブリッド自動車 市場投入のための開発を継続し、2007年度の限定市場導入を目指す。 ◇天然ガス自動車 新型レガシィベースの天然ガス自動車の市場展開を継続する。 ◇燃料電池車 次世代に向けた開発を継続する。 | ○商品計画の見直しにより、市場導入は中止。 アライアンスを活用したハイブリッドシステム等の開発を推進。 ○天然ガス車「レガシィB4 2.0CNG」を販売中 ○ハイブリッド車や燃料電池車に使用する次世代電池の開発等を継続中。 | — |
| | 【汎用エンジン】 ◇2002年度中にCNG、LPG燃料対応の汎用エンジンを市場導入する。 | ○商品開発はしたが市場投入は見送った。 | × |
| リサイクル性の向上 | ◇新型車のリサイクル配慮設計を推進し、2015年リサイクル率95%に貢献する。 ●リユースなどリサイクル市場性を考慮した解体性向上。 ●リサイクルしやすい樹脂材料の使用拡大。 | ○2006年度再資源化率はシュレッダーダスト75%、エアバッグ類94.2%で法定基準を達成。 ○ワイヤリングハーネス類の解体性向上などに取り組み中。 ○新型車等のほとんどの樹脂材料にリサイクル性に優れたオレフィン系樹脂を使用。 2007年度以降も使用を継続する。 | ○ |
| 環境負荷物質の低減 | 【自動車】 ◇環境負荷物質代替技術の開発を推進し開発車への早期実施を目指す。 ●鉛については、2006年1月以降1996年比で1/10以下。 ●水銀については、2005年1月以降以下の部品を除き使用禁止。 液晶ディスプレイ、コンビネーションランプ、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯 ●カドミウムについては、2007年1月以降使用禁止。 ●六価クロムについては、2008年1月以降使用禁止。 | ○鉛・鉛使用量1996年度比1/10以下を達成した。 ○水銀・除外4部品を除き使用禁止を達成した。 ○カドミウム・使用禁止を達成した。 ○六価クロム：2007年4月以降、使用禁止を前倒し達成した。 | ○ |
| | 【汎用エンジン】 ◇汎用エンジンにおいて鉛、六価クロムなど環境負荷物質の使用削減を推進する。 | ○塗装の鉛レス完了。六価クロムは三価への切替推進中 | ○ |
| 車外騒音の低減 | ◇燃費向上や排出ガス低減との両立を図った騒音低減の技術開発を推進する。 | ○燃費向上や排出ガス低減デバイスの変更と両立して騒音を低減することができた。 | ○ |
| エアコン冷媒に係る地球温暖化の抑制 | ◇自動車1台当りの冷媒（HFC134a）使用量の削減をさらに推進する。 | ○新型レガシィ・R1・R2・ステラは、HFC使用量を従来車比11%削減した（450g→400g） | ○ |
| 交通環境に関する研究 | ◇安全かつ快適な車社会を実現する高度道路交通システム（ITS）への取り組みをさらに前進させる。 | ○電気自動車の情報遠隔管理システムの実証実験を実施。 ○安全運転支援プロジェクトの社会実験にプローブ技術応用システムを提供。 | ○ |
| 環境関連商品の開発、環境関連事業の推進 | ◇風力発電システムや環境機器・装置などの環境関連ビジネスを推進する。 | ○2,000kW級大型風力発電システムの量産設計を完了し、先行量産機の製造を開始した。 | ○ |

[2] クリーンな工場

| 項目 | 第3次環境ボランティアプラン (2002年度～2006年度) | 2006年度 実績 | 評価 |
|------------------------|--|---|----|
| 地球温暖化の抑制 | <ul style="list-style-type: none"> ◇製造高エネルギー原単位を2006年度までに1990年度比28%低減を目指す。 ◇生産工場からのCO₂排出量を2006年度までに1990年度比6%低減を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○製造高エネルギー原単位を1990年度比35%削減した。 ○CO₂排出量を1990年度比17%削減した。 | ○ |
| 生産工場における環境負荷物質の管理と排出削減 | <ul style="list-style-type: none"> ◇更新、新設する環境設備について、大気や水質などへの環境負荷を低減するため、現在定める自主基準値よりもさらに厳しい管理値を設け取り組んでいく。 ◇PRTR対象化学物質の環境への排出量削減に取り組む。 ◇自動車生産ラインにおけるVOC(揮発性有機化合物)の排出量を2006年度末までに平均45g/m²以下に低減する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○一部の更新設備について従来の自主基準値より厳しい管理値を設定して運用している。 ○排出量を2001年度比41%削減した。 ○塗装VOC発生量(単位面積当り)を2001年度比20%削減し、43.8g/m²とした。 | ○ |
| 生産工場から排出される廃棄物の削減 | <ul style="list-style-type: none"> ◇さらに前進したゼロエミッションを目指し、直接、間接を問わず、埋め立て処分量をゼロレベルとする。 ◇廃棄物の発生を抑制するとともに、廃棄物をリサイクルし、製品の部品としての活用を促進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○直接埋め立てと間接埋め立て(サーマルリサイクル後の焼却灰を含む)を合わせた埋め立て処分量ゼロレベルを達成した。北米自動車生産拠点SIAでも2004年5月以降、直接埋め立て0tonを達成。 ○廃棄物発生量を2001年度比24%削減した。 | ○ |
| 水資源の節約 | <ul style="list-style-type: none"> ◇生産工場における水使用量の削減に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○水使用量を2001年度比33%削減した。 | ○ |
| グリーン調達活動 | <ul style="list-style-type: none"> ◇取引先に対し、環境負荷物質の含有量調査報告と環境マネジメントシステムの構築を要請する。環境マネジメントシステム構築については、下記を目標とする。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●自動車部門:海外の取引先を含め、2005年3月までに取引先の95%以上が構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○取引先の100%(316/316社)が環境マネジメントシステムを構築した。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●産業機器事業部門:2004年3月末まで。 | <ul style="list-style-type: none"> ○取引先の100%(98/98社)が環境マネジメントシステム構築を継続中。 | ○ |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●航空宇宙事業部門やその他の事業部門においてもグリーン調達活動を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○航空宇宙事業部門は78%(47/60社)、エコテック/ロジック事業部門は95%(38/40社)が環境マネジメントシステムを構築した。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ◇海外取引先に対してもグリーン調達を展開する。(自動車部門) ●環境マネジメントシステム導入状況、環境負荷物質の含有状況について2002年度より調査実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ○海外取引先の100%(12/12社)が環境マネジメントシステムを構築した。 | |

[3] クリーンな物流

| 項目 | 第3次環境ボランティアプラン (2002年度～2006年度) | 2006年度 実績 | 評価 |
|----------------|--|--|----|
| 物流面における環境負荷の低減 | <ul style="list-style-type: none"> ◇輸送の効率化を図るとともに、梱包資材などの削減に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自動車共同輸送取扱量は2001年度比2.4倍に拡大。 ○梱包材リターナブル化、空コンテナ輸送削減などを実施。 | ○ |

[4] クリーンな販売店

| 項目 | 第3次環境ボランティアプラン (2002年度～2006年度) | 2006年度 実績 | 評価 |
|------------------|--|--|----|
| 販売店における環境保全活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ◇販売店の環境への取り組み活動に対する支援を行う。 ◇流通・廃棄段階でのリサイクル・適正処理を促進する。 <ul style="list-style-type: none"> ●特定フロン(CFC12)の回収・破壊と代替フロン(HFC134a)の回収、エアバッグの回収・処理、発炎筒の回収。 ◇使用済みバンパーの回収を行う。(継続) ◇自動車リサイクル法への対応を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「環境コンプライアンス総点検」として全拠点の現状確認を終え、必要な改善を進めた。 ○自動車リサイクル法に基づく2006年度再資源化実績。シュレッダーダスト再資源化率75%を達成。 エアバッグ類の再資源化率は94.2%を達成。フロン類は136,059台を引取り適正に処理した。 ○販売店での発炎筒の回収に継続して取り組んだ。 ○使用済みバンパーを44.2千本回収した。 | ○ |

[5] 管理面の拡充

| 項目 | 第3次環境ボランティアプラン (2002年度～2006年度) | 2006年度 実績 | 評価 |
|-----------------|--|---|----|
| 社会貢献活動の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ◇環境イベントへの参画、工場での地域住民の方との交流、工場見学への対応など。(継続) ◇各工場周辺地域の清掃活動や緑化活動に参加する。(継続) | <ul style="list-style-type: none"> ○約9万人の工場見学受け入れ、地域の小学校へ出向いての環境交流授業(群馬地区28校、宇都宮地区5校で実施)の開催、工場周囲の清掃活動等を継続的に実施した。 | ○ |
| 環境関連情報の公開 | <ul style="list-style-type: none"> ◇環境報告書の継続的発行、広報資料などによる環境情報の適時公表。 ◇環境報告書記載内容の改善・充実を図る。(ガイドラインへの対応、グループ企業も含めた報告) | <ul style="list-style-type: none"> ○2006社会・環境報告書を8月に発行した。 ○報告書記載内容の継続的改善を進めると共に、webを活用した別冊編を製作し、内容の充実を図った。 | ○ |
| 環境教育や啓発活動の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ◇社内教育システムに組み入れた環境教育を実施する。また、社内報や各種媒体による啓発活動を行う。 ◇講演会、職場における改善事例発表会などを実施する。(継続) | <ul style="list-style-type: none"> ○階層別、職場別に環境に関する教育を実施した。 ○社内報を活用した環境啓発活動を進めた。 ○改善事例発表会等を継続的に実施した。 | ○ |
| 環境マネジメントシステムの構築 | <ul style="list-style-type: none"> ◇環境マネジメントシステム未構築事業所における環境マネジメントシステム構築、ISO14001既取得事業所における環境マネジメントシステムの継続的改善を行う。 ◇社内環境監査および環境設備リスクアセスメントを実施する。 ◇関連企業と連携の強化、連結環境マネジメント体制の構築を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○全事業所でISO14001の外部認証取得を継続し、継続的な改善を進めた。 ○全事業所で内部監査を実施し、継続的改善を進めた。 ○環境に関する国内関連企業部会を年2回定期的に開催し、国内生産系企業の環境取り組みの継続的改善を進めた。 ○米国生産会社(SIA、RMI)と販売会社(SOA)でISO14001の統合認証を取得。他の北米2社の外部認証取得も継続した。 | ○ |

Voluntary Plan

第4次環境ボランタリープランについて

このたび第4次の環境ボランタリープランとして、2007年度から2011年度までの新たな環境保全自主取り組み計画を策定しました。これは常により高い環境保全目標を掲げるとともに法規制、業界との連携を含めた的確な環境対策を織り込み、これまで以上にクリーンな商品を、クリーンな工場から、クリーンな物流により、クリーンな販売店を通してお客さまにお届けし、商品で社会に貢献することを目標としました。

第4次環境ボランタリープランの概要

●地球温暖化防止に全力をあげて取り組んでいきます。

- 自動車のフルモデルチェンジ、年次改良ごとの継続的な燃費改善を図っていきます。
- 生産工場からのCO₂排出量を2010年度までに1990年度比15%低減を目指します。
- 物流面では2011年度末までに、2006年度比5%のエネルギー使用量原単位削減を目指します。
- 電気自動車や風力発電システムなどクリーンエネルギーを利用した商品の開発、市場展開を進めます。

●あらゆる段階で環境諸問題の継続的改善に取り組めます。

- 自動車ではさらなる低排出ガス対応化を進め、低排出ガス車両の普及を推進します。
- 新型車のリサイクル配慮設計を推進し、2015年のリサイクル率95%を目指します。
- 自動車生産ラインにおける揮発性有機化合物の排出量原単位を2010年度末までに2000年度比30%以上低減します。
- 全生産工場でのゼロエミッションを継続し、発生源対策により発生量を削減します。
- 海外も含めた取引先に環境マネジメントシステムの構築と環境負荷物質削減を要請するグリーン調達を進めます。
- 販売店の環境への取り組み活動に対する支援を行います。
- 社会貢献活動や環境関連情報の公開に努めていきます。

参照【第4次環境ボランタリープラン】富士重工業 環境保全自主取り組み計画（2007年度～2011年度）

[1] クリーンな商品

| 項目 | 目標・取り組み |
|---------------------|---|
| 燃費の向上 | 【自動車】 ◇フルモデルチェンジおよび年次改良ごとの継続的な燃費改善を図る。 ◇平成22年度燃費基準（2010年度燃費基準）達成車をさらに拡大する。 ◇平成27年度燃費基準（2015年度燃費基準）に向けた燃費改善を推進する。 |
| 排出ガスのクリーン化 | 【自動車】 ◇平成17年基準排出ガス75%低減レベル対応の技術を拡大しさらなる低排出ガス対応化を進め、低排出ガス車両の普及を推進する。 |
| クリーンエネルギーを利用した商品の開発 | ◇ハイブリッド自動車：アライアンスを活用したハイブリッドシステム等の開発を行う。*1 ◇電気自動車：業務用車両を始めとした市場導入を目指し開発を行う。*1 ◇風力発電システムの開発、市場展開を継続する。*2 ◇LPG/CNGエンジンを使用した応用製品の市場展開を図る。*3 |
| リサイクル性の向上 | ◇新型車のリサイクル配慮設計を推進し、2015年リサイクル率 95%に貢献する。 |
| 環境負荷物質の低減 | 【自動車】 ◇環境負荷物質の管理拡充およびさらなる低減を行う。 |
| 車外騒音の低減 | ◇引き続き燃費向上や排出ガス低減との両立を図った騒音低減の技術開発を推進する。 |
| エアコン冷媒に係る地球温暖化の抑制 | ◇自動車1台当りの冷媒（HFC134a）使用量の削減をさらに推進する。 ◇低温暖化係数冷媒エアコンの開発を推進する。 |
| 交通環境に関する研究 | ◇安全かつ快適な車社会を実現する高度道路交通システム(ITS)への取り組みをさらに前進させる。 |
| 環境関連商品の開発、環境関連事業の推進 | ◇塵芥収集車の開発や環境機器・装置などの環境関連ビジネスを推進する。*2 ◇省力化、省人化、省エネルギーなどを目的としたロボット関連ビジネスを推進する。*4 |

*1 スバルオートモーティブビジネス

*2 エコテクノロジーカンパニー

*3 産業機器カンパニー

*4 クリーンロボット部



インプレッサ S-GT

[2] クリーンな工場

| 項目 | 目標・取り組み |
|------------------------|---|
| 地球温暖化の抑制 | ◇生産工場からのCO ₂ 排出量を2010年度までに1990年度比15%低減を目指す。 |
| 生産工場における環境負荷物質の管理と排出削減 | ◇PRTR対象化学物質の環境への排出量削減を継続する。 ◇自動車生産ラインにおけるVOC(揮発性有機化合物)の排出量原単位(g/m ³)を2010年度末までに2000年度比30%以上低減する。 ◇環境リスクアセスメント活動により環境リスクを低減し、事故・苦情・自主基準値超過のゼロ化を図る。 |
| 生産工場から排出される廃棄物の削減 | ◇歩留り向上、取り代削減、塗着効率向上、荷姿改善等の発生源対策により発生量を削減する。 ◇ゼロエミッション(直接、間接を問わず埋め立て処分量ゼロレベル)を継続する。 |
| 水資源の節約 | ◇生産工場における水使用量を2011年までに1999年度比45%低減を目指す。 |
| グリーン調達活動 | ◇海外も含め取引先に対し、環境マネジメントシステムの構築と環境負荷物質の削減を要請する。 環境マネジメントシステム構築については、下記を目標とする。 ●自動車部門、産業機器事業部門:100%構築体制の維持継続。 ●エコテクノロジー部門、航空宇宙部門:構築完了を目指す。 環境負荷物質の削減についてはEU指令など各種法規の対応日程を順守する。 ◇CSR調達についてはガイドラインを設定し、取引先に展開する。 |

[3] クリーンな物流

| 項目 | 目標・取り組み |
|----------------|--|
| 物流面における環境負荷の低減 | ◇改正省エネ法への確実な対応の実施。 ●2011年度末までに、2006年度比5%のエネルギー使用量原単位削減を目指す。 ◇梱包資材などのリユースやリターナブル箱の活用を推進し環境負荷の低減に取り組む。 |

[4] クリーンな販売店

| 項目 | 目標・取り組み |
|------------------|--|
| 販売店における環境保全活動の推進 | ◇販売店の環境への取り組み活動に対する支援を行う。 ◇流通・廃棄段階でのリサイクル・適正処理を促進する。 ●特定フロン(CFC12)の破壊と代替フロン(HFC134a)の回収。 ●エアバッグの回収・処理、発炎筒の回収。 ◇使用済みバンパーの回収を継続的に行う。 ◇自動車リサイクル法への対応を継続する。 |

[5] 管理面の拡充

| 項目 | 目標・取り組み |
|-----------------|--|
| 社会貢献活動の実施 | ◇環境イベントへの参画、工場での地域住民の方との交流、工場見学への対応を継続する。 ◇各工場周辺地域の清掃活動や緑化活動に継続的に参加する。 ◇環境団体などの活動への支援、協力を行う。 |
| 環境関連情報の公開 | ◇社会・環境報告書の継続的発行、広報資料などによる社会・環境情報の適時公開を図る。 ◇社会・環境報告書記載内容の改善・充実を図る。 (ガイドラインへの対応、グループ企業も含めた報告) |
| 環境教育や啓発活動の実施 | ◇社内教育システムに組み入れた社会・環境教育を継続実施する。 ◇社内報や各種媒体による啓発活動を継続する。 ◇講演会、職場における改善事例発表会などを継続実施する。 |
| 環境マネジメントシステムの構築 | ◇ISO14001既取得事業所における環境マネジメントシステムの継続的改善を行う。 |